

《相違点を明確にして聞く 話例》

救急車を有料化すべきだ

救急対応が追いつかないということが、すでに二十年以上いわれています。総務省のデータでは、二〇二〇年では、約五・三秒に一回の割合で救急車が出動し、約五百二十九万人が搬送はんそうされましたが、搬送される人の約四十五％が、入院を必要としない軽傷者だそうです。そのこともあり、速すみやかに対応すべき人の処置がまにあわず、救急車で運ぶ必要のある人が運べない事態が起こっています。

このようなことが起きている原因の一つとして、救急車が無料であるため、安易に利用されやすいという実態があると思います。そのことを踏まえ、例えば、救急車を一回利用するにあたり、五千円をその利用者が負担することを提案します。山岳救助などで民間の救助隊が出動したときは、費用負担が求められますので、それは当然のことだと思いますし、高額すぎず、かつ利用するかしないかを判断する金額としてこの額を設定しました。

このプランを採用することのメリットは二つあります。一つは救助を本当に必要とする人が利用できるようになるということです。救急車を一回呼ぶごとに五千円がかかるわけですから、タクシー代わりに救急車を呼んだり、自分で病院に行けるのに救急車を呼んだりすることは減るでしょう。もう一つは財政負担の軽減です。救急車は、救急車自体の購入、そこに載せる医療機器いりようの費用、ガソリン代、メンテナンス代を国からの交付金や自治体からの補助金により賄まかなわれています。つまり私たちの税金です。皆さんご存じのように、国や地方地自体は財政難の状況じようきようです。救急車を有料化し、たとえ一部であっても救急車にかかる費用に充あてるとよいのではないかと考えます。